

最新の技術で 心と文明を探る

「心は、どこにあるのでしょうか？」という問いに、現代の方は、脳を指すことが多くなったと思います。ですが、その脳が関係する心については、まだまだわかっていないことが多いです。また、同じように、地球の中で繰り広げられてきたヒトの文明も、明らかになっていないことが非常に多いです。

本報告会では、最新のテクノロジーを駆使して、ヒトの心と文明を探索する本学の若手教員2名のお話をお楽しみください。

2025年 **8月27日** 水
16:00~17:15

場所：小松商工会議所3階大ホール
(石川県小松市園町ニ1)



美味しいマフィンと
コーヒー付♪

内容

○開会挨拶 (16:00~16:05)

挨拶：公立小松大学 学長 山本 博

○講演① (16:05~16:35)

演 題：「日本と中米をつなぐ架け橋：小松発・マヤ文明世界遺産における調査研究と国際協力プロジェクト」

講演者：公立小松大学大学院 サステイナブルシステム科学研究科・次世代考古学研究センター 特任助教 小川 雅洋

○講演② (16:35~17:05)

演 題：「共鳴する心、進化する知識社会：神経科学から読み解くつながりの力」

講演者：公立小松大学 生産システム科学部 生産システム科学科 助教 藤原 正幸

○閉会挨拶、記念撮影 (17:05~17:15)



【司会】

高木 祐介

公立小松大学
学長補佐（研究担当）

【申込方法】

お申込みは右記QRよりアクセス
<https://forms.office.com/r/etT5YbX3it>
申込期限：令和7年8月20日（水）



講演者紹介・講演要旨

講演①

日本と中米をつなぐ架け橋：

小松発・マヤ文明世界遺産における調査研究と国際協力プロジェクト

2023年以降、公立小松大学次世代考古学研究センターの「マヤ文明世界遺産部門」では、中米ホンジュラスおよびグアテマラにおいて、調査研究や国際協力プロジェクトを積極的に展開してきた。本発表では、異分野融合による最先端技術を駆使したマヤ文明研究の成果に加え、現地博物館や大阪・関西万博での展示協力、三次元技術に精通した現地人材の育成、さらにはエコミュージアム構想を基盤としたまちおこしの取り組みなど、多様な国際協力事例を紹介する。また、これらの活動と小松市との連携の可能性についても展望を示したい。

小川 雅洋

公立小松大学大学院
サステナブルシステム科学研究科・
次世代考古学研究センター 特任助教



専門はマヤ考古学、文化資源学。2023年より現職。中米マヤ文明における地域間交流の研究の一環として、主に黒曜石製石器の分析などを実施。中米ホンジュラスやグアテマラのマヤ文明世界遺産における現地人材育成事業、まちおこし事業、博物館リニューアル事業などの国際協力プロジェクトにも携わる。

講演②

共鳴する心、進化する知識社会：神経科学から読み解くつながりの力

ホタルの同期発光や群れの行動に見られるように、生物には「同期」の仕組みがある。こうした現象は人間の脳内や他者との脳活動にも現れ、私たちのコミュニケーションの基盤を支えている。本講演では、神経レベルから社会集団まで広がる同期や同調の現象について紐解き、知識社会における「心」や「つながり」について考える。さらに、昨年実施したデジタル地域通貨の社会実験を紹介し、技術や道具を通して「つながり」を取り戻す試みにも触れる。

藤原 正幸

公立小松大学
生産システム科学部
生産システム科学科 助教



広島県福山市生まれ、幼少期を岡山県岡山市で過ごす。福岡県糟屋郡新宮町出身。2023年に北陸先端科学技術大学院大学にて博士（知識科学）を取得。これまでに日本学術振興会特別研究員（DC1）、九州工業大学大学院生命体工学研究科の研究職員などを経て現職。北陸先端科学技術大学院大学特別研究員。専門は脳波を用いた認知研究や知識科学に関する研究、特に認知神経力学の観点から意図に関わるコミュニケーションについて研究している。

お問い合わせ先

公立小松大学協力会事務局

〒923-0921 小松市土居原町10-10（公立小松大学総務課内）

TEL：0761-23-6600